

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
鹿児島キャリアデザイン専門学校	昭和63年12月19日	東 祐二	〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4173番地 (電話) 099-267-2411																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人原田学園	昭和34年10月20日	原田 賢幸	〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4118番地 (電話) 099-268-3101																															
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
工業	工業専門課程	自動車整備科	令和3年度 文部科学大臣認定		令和4年度																													
学科の目的	近年、自動車は技術の進화가早く、自動運転等の先端技術が導入されている。それに伴い、自動車整備業界もIT機器の導入や点検システムの法改正など、自動車整備士に求められている技術力が高くなってきている。本学科では、国家二級自動車整備士資格を取得し、近年の進化に対応できる自動車整備のプロを育成し、自動車整備業界に輩出していくことを目的としている。																																	
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	自動車整備科は、2年間の学習により国家二級ガソリン自動車整備士、国家二級ジーゼル自動車整備士、国家二級自動車シャシ整備士の国家資格取得を目指している。国土交通省自動車整備士一種養成施設の指定基準に則ったカリキュラムであるとともに、本科独自のスポーツカーを使用したサーキット実習を行い、メンテナンス技術の習得度を高めている。																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入 1,870 単位時間 単位	610 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,260 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)	中退率																														
80人	75人	7人	9%	0%																														
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>33</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>33</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>33</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>28</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>85</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 自動車整備業(メーカー系自動車販売会社、建設機械整備会社等)</p>						■卒業者数(C)	33	人	■就職希望者数(D)	33	人	■就職者数(E)	33	人	■地元就職者数(F)	28	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	85	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	33	人																																
■就職希望者数(D)	33	人																																
■就職者数(E)	33	人																																
■地元就職者数(F)	28	人																																
■就職率(E/D)	100	%																																
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	85	%																																
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																
■進学者数	0	人																																
■その他																																		
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																	
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/car/">https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/car/</a>																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,870 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>30 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>30 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>30 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>						総授業時数	1,870 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	30 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	30 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	30 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	1,870 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	30 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																																	
うち必修授業時数	30 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	30 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総単位数	単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																	
うち必修単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td>5人</td> </tr> </table>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	4人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	人	計	6人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	5人														
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	4人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	人																																	
計	6人																																	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	5人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業や関係団体等と連携を図り、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能を授業科目や授業内容に反映し、学生に教授していく為、企業や関係団体等からの意見を十分に活かし、カリキュラムを見直し、改善を図る等の教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

(1)の基本方針に従い、教育課程編成委員会を設置し、各学科の教科構成について実務に必要とされる知識・技術・技能などが、該当する学科のカリキュラムに反映されているかを確認する。教育課程編成委員会で指摘を受けた内容について、各学科にて分析・検討し、改善すべき項目を委員長である学校長に報告する。学校長が必要と判断した場合には、改善点を各学科の教育責任者に指示する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
平野 学	一般社団法人 鹿児島県自動車整備振興会 技術教育部 部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	①
徳 浩之	鹿児島ダイハツ販売株式会社 取締役 管理本部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
海津 星二	鹿児島トヨタ自動車株式会社 営業本部 サービス部 部長	令和5年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
新原 誠也	トヨタカローラ鹿児島株式会社 サービス部 技術課 主任	令和6年1月25日～ 令和7年3月31日(1年)	③
東 祐二	鹿児島キャリアデザイン専門学校 校長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—
小屋敷 真	鹿児島キャリアデザイン専門学校 自動車整備科科长	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—
森田 聡	鹿児島キャリアデザイン専門学校 自動車整備科教員	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月31日 14:00～16:00

第2回 令和6年3月22日 10:00～11:50

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ①これまでは圧縮エアを動力源とした工具で作業していたが、近年は電動化が進んでいるため、学校教材を電動化するための予算を確保。
- ②社内のカウンセリングを行った際、早期離職者の相談相手として、専門学校の教員が良いという回答が多いようである。それに伴い、卒業生に対しフォローすることにした。具体的には、全卒業生を対象としたアンケート調査の実施、フォローが必要と思われる学生に対しては、こちらからアプローチする。
- ③整備士でもPCの基礎的な技術が必要となるため、PCに関する授業を導入するかを検討する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習、実技、演習等は専修学校の教育にとっては非常に重要なものであるため、常に最新の技術や技能を教授する必要がある。そのために本校と企業や関係団体等が密接に連携した体制を構築し、より実践的な職業教育の質の確保ができるよう組織的に取り組む。

また、連携を行う企業等とは協定書等を締結し、校内外で実施される実習・演習等について、指導内容やその学修成果の評価等も含めて、実践的な職業教育を行うものとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

(1) の基本方針に従い、次の項目について連携を行う。

- ①カリキュラムの作成
- ②実習・演習の計画及び実施
- ③成績評価及び進級判定等に関する助言
- ④その他の実習運営上に必要となる事項

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
自動車検査作業Ⅱ	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	車検の必要性と点検項目を学ぶ。実際に点検させ、検査機器の使用方法を学ぶとともに、点検後の指定整備記録簿の記入方法について学び、多頻度作業として習得する。 Illustratorを使用した、印刷物のデザイン制作、印刷データの作成、印刷データの入稿、納品までの実務工程を、課題を通して学習する。	鹿児島トヨタ自動車株式会社、鹿児島トヨペット株式会社、トヨタカローラ鹿児島株式会社、鹿児島ダイハツ販売株式会社、三菱ふそうトラックバス株式会社など 計15社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員等の研修に関する諸規程第2条のとおり、教員は業務経歴や能力、担当する授業の分野に応じて、実務に関する知識、技術、技能の修得および学生に対する指導力等を修得するために、企業等と連携を図り、研修等を計画的に受講し、常に自己研鑽に努め、教育水準の向上を図る。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 日産自動車技術研修会	連携企業等: 日産自動車株式会社
期間: 令和5年8月2日(水)	対象: 教員1名
内容: 日産自動車の先進・安全技術搭載車の知識習得と試乗	
研修名: 自動車整備業経営者セミナー	連携企業等: 鹿児島県自動車整備振興会
期間: 令和6年3月5日(火)	対象: 教員2名
内容: 自動車整備士の働き方改革(生産性向上)	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 7つの習慣セルフコーチング スキルアップ研修	連携企業等: (株)FCEエデュケーション
期間: 令和5年6月22日(木)、28日(水)	対象: 教職員6名
内容: 「7つの習慣セルフコーチング講座」実施に向けてのスキルアップ研修	
研修名: 防犯研修	連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団
期間: 令和5年7月21日(金)	対象: 全教職員
内容: 「さすまた」等を利用した不審者対応研修	

研修名:	データから見る2024年度入学生に求められる学生指導とは	連携企業等:	(株)進研アド
期間:	令和5年7月25日(火)	対象:	教職員8名
内容	入学者数減少と学力低下が専門学校教育に及ぼす影響		
研修名:	新任指導力(メンタリング)	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年8月9日(水), 10日(木)	対象:	職員1名
内容	新任指導育成のための目標管理能力/新任の能力を引き出すためのメンタリング力の修得		
研修名:	令和5年度新任教員研修会	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団 鹿児島県研究研修事業支部 委員会
期間:	令和5年8月22日(火)~24日(木)	対象:	教員4名
内容	「学生・教員のための実践心理」「専修学校における職業教育」ほか専修学校教員として必要な基礎的知識の修得		
研修名:	ハラスメントに関するオンライン研修	連携企業等:	成蹊大学教授 原 昌登
期間:	令和5年9月6日(水)~22日(金)	対象:	全教職員
内容	職場のハラスメントの基礎知識, パワーハラスメントの具体例, どうすればハラスメントを防止できるのか		
研修名:	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等:	ベネッセコーポレーション
期間:	令和5年9月20日(水)~22日(金)	対象:	教職員2名
内容	社会の変化が及ぼす教育への影響, 企業への実態調査の報告, 専門学校の教育事例紹介		
研修名:	ファシリテーションを活用した合意形成の効率化	連携企業等:	一般社団法人鹿児島県情報 サービス産業協会
期間:	令和5年12月19日(水)	対象:	教職員2名
内容	ファシリテーション力を利用した有意義な会議の実施及び生産性の向上		
(3) 研修等の計画			
① 専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	日産技術研修会	連携企業等:	日産自動車株式会社
期間:	令和6年8月6日(火)	対象:	教員1名
内容	日産自動車の自動運転技術について		
研修名:	自動車整備業経営者セミナー	連携企業等:	鹿児島県自動車整備振興会
期間:	令和6年8月20日(火)	対象:	教員2名
内容	OBD検査・OBD確認開始に伴う業務について		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	多層化する専門学校生を最新データで読み解く 中退防止に向けた学力向上への取組	連携企業等:	株式会社進研アド 株式会社Weness
期間:	令和6年6月25日(火)	対象:	教員1名
内容	学力の多層化が進む状況から推測される事象や影響, 特に中途退学について		
研修名:	先生と生徒のためのアンガーマネジメント実践方法	連携企業等:	一般社団法人日本アンガーマ ネジメント協会
期間:	令和6年7月18日(木)	対象:	教員7名
内容	怒りで後悔しないために, 上手に怒る技術と向き合う姿勢を身につける		
研修名:	未来の先生フォーラム2024特設サイト【オンライン】	連携企業等:	未来の先生フォーラム2024 実行委員会
期間:	令和6年7月29日(月)~8月2日(金)	対象:	教職員5名
内容	全体テーマ「学校教育の未来」		
研修名:	PBL研修	連携企業等:	金沢工業大学 教職課程 木村竜也
期間:	令和6年8月1日(木)	対象:	教職員12名
内容	PBLの基本概念や成功事例、効果的な導入方法について学ぶ		

研修名:	令和6年度新任教員研修会	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団 鹿児島県研究研修事業支部 委員会
期間:	令和6年8月20日(火)～22日(木)	対象:	教員1名
内容	「学生・教員のための実践心理」「専修学校における職業教育」ほか専修学校教員として必要な基礎的知識の修得		
研修名:	令和6年度キャリアデザ職員研修	連携企業等:	鹿児島純心短期大学 生活学科 中島 賢太郎
期間:	令和6年12月23日(月)	対象:	全教職員
内容	発達に課題を抱えている学生に対しての理解とアプローチ方法		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について自己評価を行うことにより、学校としての組織的・継続的な改善を図る。また、自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果を公表することにより、適切に説明責任を果たすとともに、特色ある学校づくりを進めることにより、関連業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を教授できるよう学校運営の改善と学校教育の発展を目指す。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①学校の理念・目的は定められているか ②社会のニーズ等を踏まえた学生の将来構想を抱いているか ③学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ④各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	①学園の運営方針に沿った事業計画が策定されているか ②運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ③人事、給与に関する規程等は整備されているか ④教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑤情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	①業界のニーズに沿った教育課程の編成を行っているか ②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③学科等のシラバスは体系的に編成されているか ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑫職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③就職先企業を訪問するなどして卒業生の実態を把握しているか

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>②学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>④課外活動に対する支援体制はあるか</li> <li>⑤経済的支援制度利用についての情報提供を行っているか</li> <li>⑥必要に応じて保護者との連携が図られているか</li> <li>⑦卒業生への支援体制はあるか</li> <li>⑧高等学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>②学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>③防災訓練を定期的実施しているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学生募集活動は適正に行われているか</li> <li>②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>③授業料等、徴収する金額はすべて明示しているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校の収支のバランスは取れているか</li> <li>②予算編成は教育目標・業務計画と整合性があるか</li> <li>③財務について会計監査を適切に実施しているか</li> <li>④財務の情報公開はされているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>④自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>③地域に対する公開講座やイベント支援等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>①留学生の受け入れを行っているか</li> <li>②留学生の受け入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>③留学生の学修・生活指導等が適切に行われているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3) 学校関係者評価結果の活用状況

- (1) 「1.教育理念・目標」に関し、令和5年度はアドミッションポリシーを中心に、各科3つのポリシーの見直しを図った。令和6年度は在校生、オープンキャンパスへの参加高校生を中心に、積極的にポリシーの周知を図るとともに、再定義したポリシーを再評価して、今後の行動指針策定に向けての土台とする。
- (2) 「4.学修成果」に関し、卒業生の実態把握についてのご意見をいただいた。現状は在校生の実習の有無や県内・県外で隔たりがあるため、今後一律に実態把握ができる仕組みを検討する。
- (3) 「5.学生支援」に関し、コロナ禍を経て、人とのコミュニケーションが苦手な学生が増加傾向にあるので、まずはクラスでのコミュニケーション力向上に向けての取り組みや、自己分析の指導等を強化し、そのうえで、面接指導のあり方等、各学科とキャリアセンターの連携を一層強化していく。また、卒業生への支援体制についても、更にアプローチを容易にするための仕組みづくりについて検討していく。
- (4) 「10.社会貢献・地域貢献」に関し、「やらされるボランティア活動から将来の自分へつなげるボランティア活動へ視野を広げる」必要性についてご意見をいただいた。学科の特性により、ボランティア活動に積極的な科とそうでない科があるが、どの科も学習している内容を活かした地域貢献(小中学生対象の職業体験等)を通じて、自己成長できるイベント等が出来ないか、模索していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
重山 茂仁	株式会社鹿児島頭脳センター IT事業部 次長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	卒業生
大橋 紘一	社会福祉法人常盤会 顧問	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
宮之原 明子	株式会社清友 代表取締役	令和5年5月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
新納 武彦	鹿児島情報高校 校長	令和5年5月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
久木元 駿	社会福祉法人常盤会 総務部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

**ホームページ** ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

[https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/wp-content/uploads/2024/08/R05\\_gakkouhyouka.pdf](https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/wp-content/uploads/2024/08/R05_gakkouhyouka.pdf)

公表時期: 令和6年8月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報提供の方法は、誰もが比較的容易にアクセスすることが可能な本校ホームページにて公表する。  
 また、企業や関係団体等の学校関係者に対しては、年度始めに学校関係者評価委員会を開催し、学校長より当該年度の運営方針等を説明し、様々な教育活動の情報の公表を行った上で、実践的な職業教育のための更なる連携を深めるよう依頼を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①教育理念 ②学校の概要(連絡先等) ③学校の沿革 ④学則等 ⑤「鹿児島キャリアデザイン専門学校」の3つのポリシー
(2) 各学科等の教育	①修業年限・定員 ②学科紹介・取得可能な資格 ③「各学科」の3つのポリシー ④シラバス
(3) 教職員	①組織図・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①就職支援 ②卒業後の進路(就職先一覧)
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②サークル紹介 ③施設紹介
(6) 学生の生活支援	①学生寮紹介
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金(入学金・学費・併修費) ②奨学金・教育ローン ③各種免除制度
(8) 学校の財務	①財務諸表等
(9) 学校評価	①自己評価表 ②学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	①日本語科設置 ②アドバンス日本語科設置
(11) その他	①高等教育の修学支援制度における機関要件確認申請書 ②職業実践専門課程の基本情報について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/school/joho\\_koukai/](https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/school/joho_koukai/)

公表時期: 令和6年9月30日



授業科目等の概要

(工業専門課程自動車整備科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		工学 エンジンⅠ	1年次はガソリンエンジンの力の発生原理とガソリンエンジンの4行程を学ぶとともに、本体の構造（ピストン〜クランクシャフト）と動きを学ぶ。2年次はディーゼルエンジンの力の発生原理を学び、ガソリンエンジンと比較しながら、ディーゼルエンジンの構造や排出ガスの種類について学ぶ。	1前 2前	30	2	○			○		○		
2	○		工学 エンジンⅡ	1年次はガソリンエンジンにおける出力制御方法と吸排気装置の役割・構造を学ぶ。また、理論空燃比をもとにエンジン内の燃焼状態を学ぶとともに、燃料装置の役割・構造を学ぶ。2年次はディーゼルエンジンの従来型燃料装置（列型インジェクションポンプ、分配型インジェクションポンプ）とインジェクションノズル、予熱装置について構造を理解する。	1前 2前	30	2	○			○		○		
3	○		工学 シャシⅠ	1年次はシャシ構成部品全体の確認をするとともにタイヤ&ホイールの役割・構造を学ぶ。また、実習場内での安全作業、リフト・ガレージジャッキの取り扱いを学ぶ。2年次はステアリング装置におけるパワーステアリングの必要性和構造を学び、マニュアルステアリングとの違いを学ぶ。また、ABSの必要性和構造を学び、ABS非搭載車との違いを学ぶ。	1前 2前	30	2	○			○		○		
4	○		工学 シャシⅡ	1年次は動力伝達装置のクラッチおよびマニュアルトランスミッションの役割・構造を学ぶ。また、トランスミッションの修得に必要なギヤ比と伝達トルクを学ぶ。2年次はオートマチックトランスミッションの構造と制御について学ぶ。	1前 2前	30	2	○			○		○		
5	○		工学 シャシⅢ	1年次は制動装置（ブレーキ）の全体的構造、利用されている原理、種類について学ぶ。マスターシリンダーとディスクブレーキ・ドラムブレーキの構造と特徴を学ぶ。2年次は動力伝達におけるLSDの必要性和構造、電子制御式サスペンション（エアサスペンション）の特徴を学ぶ。また、大型車のエアブレーキ、エア油圧ブレーキの構造と特徴を理解する。	1前 2前	30	2	○			○		○		

6	○		工学 シャシⅣ	動力伝達装置のプロペラシャフト・ディ ファレンシャル・ドライブシャフトの役 割・構造を学ぶ。動力伝達のシャフトに使用 されるジョイントの種類と特徴を理解する。	1 後	15	1	○			○		○					
7	○		工学電装Ⅰ	1年次では自動車に使用されている電気の 基本（電源、アース、回路）を学びなが ら、オームの法則を理解する。自動車の電 源であるバッテリーの役割・構造を学ぶ。2 年次では電子制御式燃料噴射装置の構成部 品を学ぶとともに、燃料噴射制御（基本燃 料噴射時間と補正噴射時間）について学 ぶ。また、外部診断器の使用方法を学ぶ。	1 前 2 前	30	2	○			○		○					
8	○		工学電装Ⅱ	スタータの必要性和構造を学ぶ。電磁誘導 作用の原理を理解し、点火装置の低電圧か ら高電圧へ変換する仕組みを理解する。	1 前	15	1	○			○		○					
9	○		力学Ⅰ	1年次は自動車整備に必要な考え方や原理 を、数字を使用して理解を深めていく。基 本となる単位や単位換算、トルク、圧力、 オームの法則を学ぶ。2年次は1年次の基 礎力を発展させ、仕事率、出力、ピストン スピード、排気量を学ぶ。	1 前 2 前	50	2	○			○		○					
10	○		力学Ⅱ	1年次は自動車整備に必要な考え方や原理 を、数字を使用して理解を深めていく。ギ ヤ比、軸重、加速度を学ぶ。1年終了時 には復習を行い、計算ができる基礎を作る。 2年次は速度と回転速度から使用ギヤの算 出やスタータ出力、オームの法則応用問題 を学ぶ。2年終了時には2年間の復習を行 い、習った方法を駆使して答えを算出で きるようになる。	1 後 2 後	45	2	○			○		○					
11	○		電気電子理 論	論理回路の基本を学び、車両で使用してい る回路から動きを理解する。エアコンの冷 凍サイクルおよびオートエアコン制御の仕 組みを理解する。	2 前	15	1	○			○		○					
12	○		材料・図面	自動車に使用されている材料についての基 礎を学び、主な部品がどのような製造方法 で作られているのか、その材料を使う理由 などを学ぶ。また、部品や整備マニュアル の理解を深めるために製図の基礎を学び、 平面図や立体図が書けるようになる。	2 後	15	1	○			○							○
13	○		燃料油脂	自動車に使用される燃料の種類（ガソリ ン・軽油・LPガス）の精製方法とそれぞ れの特徴について学ぶ。また、自動車に使用 される油脂の種類と特徴を学ぶ。	1 前	15	1	○			○		○					

14	○		整備エンジン	1年次は電子制御の基本を学び、電子制御式燃料噴射装置の構成部品と吸入空気量の検出方法を学ぶ。また、冷却装置の役割・構造を学ぶ。2年次はディーゼルエンジンの高圧燃料噴射装置であるコモンレール式とユニットインジェクタ式について、構造と制御について学ぶとともに、従来型と比較しどのように変化しどのような特徴があるかを学ぶ。	1前 2前	30	2	○		○	○								
15	○		整備シャシ I	1年次はステアリング装置について役割・構造を学ぶとともに自動車の旋回しやすさを向上させる工夫を知る。また、制動装置に使用されている制動倍力装置の役割・構造を学ぶ。2年次は大型車のエキゾーストブレーキやエディカレントリターダ、インターアクスルディファレンシャルの構造と特徴を学ぶ。	1前 2前	45	3	○		○	○								
16	○		整備シャシ II	緩衝装置のサスペンションについて、役割・構造・種類を学ぶとともに、緩衝装置が原因で発生する不具合について理解する。	1後	15	1	○		○	○								
17	○		整備シャシ III	車両のホイールアライメントについて役割・原理を学ぶ。また、1年次に学習したシャシ構成部品の復習を行うとともに、シャシ構成部品が原因となる不具合について学ぶ。	1後	15	1	○		○	○								
18	○		整備電装 I	1年次は充電装置であるオルタネータの役割と発電原理・構造・種類を学ぶ。また、自動車に使用されている配線関係が探し出せるように配線図集の使用法を学ぶ。2年次は電子制御のアイドル回転速度制御（ISC）および点火時期制御（ESA）の必要性和各制御について学ぶとともに、完全移行しつつある電子制御式スロットルについても学ぶ。	1前 2前	30	2	○		○	○								
19	○		整備電装 II	1年次はボデー電装として灯火装置の役割・種類・構造・回路、パワーウィンドウの構造と回路を学ぶ。2年次はハイブリッドシステムの構造と制御を学ぶ。2年次後半は2年間の電装教科の総復習を行う。	1前 2前	35	2	○		○	○								
20	○		整備故障探求	実践的なトラブルシューティングの考え方や進め方を学ぶ。現象確認、原因の推定、点検の実施、不具合箇所の特定の手順と点検方法を学ぶ。	2後	15	1	○		○	○								
21	○		機器取扱 I	一般工具とSSTや授業内で使用した機器・測定器について、構造や取り扱い方法、注意点を学ぶ。	1前	15	1	○		○	○								
22	○		機器取扱 II	SSTや授業内で使用した機器・測定器について、構造や取り扱い方法、注意点を学ぶ。	1後	15	1	○		○	○								
23	○		自動車検査	自動車の検査業務に係る内容として保安基準を学ぶ。	2後	20	1	○		○	○								

24	○		法規	自動車に関する法規（主に道路運送車両法）について学ぶ。	2前	25	1	○			○	○		
25	○		工作測定	1年次はエンジン内部のピストンクリアランス測定作業の習得を主としてノギス・マイクロメーター・ダイヤルゲージの使用法・測定方法を学ぶ。また、エンジン内部のバルブクリアランス測定に伴うシクネスゲージの使用法・測定方法を学ぶ。2年次は車検に使用する検査機器の取扱を主とし、排気ガス（CO、HC濃度）や制動力の左右差、スピードメータの誤差、横滑り角、ヘッドライトの照度などの測定器の取り扱いを学ぶ。	1前 2前	60	2				○	○	○	
26	○		整備作業 エンジンⅠ	1年次はガソリンエンジンをすべて分解し、本体の構造を確認する。特にピストン～クランクシャフトと動きを学ぶ。ピストン脱着作業を取り出し、作業手順の重要性、清掃とオイル塗布、トルク感覚と締め付け確認、作業完了時の確認の重要性を習得する。2年次はディーゼルエンジンを分解し、本体の構造を確認する。特にガソリンエンジン違いを学ぶ。ディーゼルエンジンのタイミングベルト脱着作業を多頻度作業として習得する。	1前 2前	75	2				○	○	○	
27	○		整備作業 エンジンⅡ	1年次は車両における吸排気装置と燃料装置の構成部品の配置を理解させる。それぞれの点検方法を習得する。タイミングベルト脱着作業を実施し、多頻度作業として習得する。2年次はインジェクションポンプ（列型・分配型）を構造研究し、動きを理解する。予熱装置の構造と制御を学ぶ。	1前 2前	80	2				○	○	○	
28	○		整備作業 エンジンⅢ	1年次はバルブ機構の役割・構造・種類を学ぶとともに、バルブタイミングの必要性を学ぶ。2年次はガソリンエンジンにおける排出ガスの発生原因と排出防止の対策やディーゼルエンジンにおける排出ガス対策（尿素SCR、ディーゼルパーティキュレートフィルター）について、実車を確認しながら学ぶ。また、2年間のエンジン教科の復習を行う。	1後 2後	##	4				○	○	○	
29	○		整備作業 シャシⅠ	1年次はガレージジャッキおよびリフトの使用法を習得する。また、タイヤの構造、サイズの読み、タイヤ脱着およびローテーション、タイヤ交換作業、パンク修理について習得する。2年次はパワーステアリング装置を車両から取り外し構造を確認する。ABSでは構成部品と搭載位置を確認し、外部診断器を利用して、異常コードの読み取り方やハイブリッド車のエア抜き方法を学ぶ。	1前 2前	90	2				○	○	○	

30	○		整備作業 シャシⅡ	1年次はトランスミッションとクラッチを車両から取り外し、それぞれを分解し構造を研究する。クラッチについては組付け作業を多頻度作業として習得する。2年次はオートマチックトランスミッションを車両から取り外し、分解し構造の理解を深める。トルクコンバーターの流体クラッチの仕組みも理解する。ATの点検（油量点検、ストール点検）も実施し習得する。	1前 2前	90	2			○	○	○				
31	○		整備作業 シャシⅢ	1年次は制動装置のマスターシリンダーの分解を実施し、油圧の発生する仕組みを学習する。また、ドラムブレーキとディスクブレーキを分解し制動力が働く原理、自動調整機構を学習する。ブレーキの分解組付け作業は多頻度作業として習得する。2年次はLSDを分解し各種類の特徴を学ぶ。また、大型車のエアブレーキ、エア油圧ブレーキの構造を実際の部品で確認し動きを理解する。	1前 2後	75	2			○	○	○				
32	○		整備作業 シャシⅣ	1年次は車両からプロペラシャフト、ディファレンシャル、ドライブシャフトを取り外し、構造を研究する。ディファレンシャルの3作用の確認をするとともに、デフォイルの点検方法を学ぶ。ドライブシャフトのブーツ交換は多頻度作業として習得する。2年次は大型車のエキゾーストブレーキやエディカレントリターダ、インターアクスルディファレンシャルの取り付け位置、作動について実車で確認する。また、外部診断器を用いた作業の復習を行い、理解度の向上を図る。また、2年間のシャシ教科の総復習を行う。	1前 2後	##	3			○	○	○				
33	○		整備作業 シャシⅤ	ステアリング装置の構造を学ぶとともに、ターニングラジアスゲージを使用してステアリングギヤ比を学習する。制動倍力装置の構造を確認し、点検方法を習得する。	1前	40	1			○	○	○				
34	○		整備作業 シャシⅥ	サスペンションの種類を車両で確認する。サスペンションを車両から取り外し分解して構造を過学習する。フロントサスペンション交換を多頻度作業として習得する。	1前	40	1			○	○	○				
35	○		整備作業 シャシⅦ	ホイールアライメントで使用するCCKゲージ、トーインゲージ、サイドスリップテストを学び、アライメントの調整と測定を行い習得する。1年次のシャシ関係多頻度作業の復習を行う。	1前	60	2			○	○	○				
36	○		整備作業 電装Ⅰ	1年次はサーキットテストの使用方法を理解するとともに、パネルで回路を作成しながら電圧・電流・抵抗について測定できるようになる。車両の電源とボデーアースを理解する。2年次は車両からエアコン部品一式を取り外し、構造と冷凍サイクルの流れを理解する。また、部品交換時の対応方法や真空引き、冷媒ガスの充てん方法・回収方法を習得する。	1前 2前	85	2			○	○	○				

37	○		整備作業 電装Ⅱ	1年次はスタータを分解し構造を理解するとともに、吸引・保持・戻りの点検、無負荷試験を重要作業として習得する。点火装置においてはスパークプラグの点検作業および交換作業を多頻度作業として習得する。2年次は電子制御式燃料噴射装置に必要なセンサの出力波形をオシロスコープで確認したり、疑似信号を入力したときに制御が変化することを確認したりすることで燃料噴射制御の理解を深める。また、各センサーの点検方法を習得する。	1前 2前	70	2				○	○	○						
38	○		整備作業電 装Ⅲ	1年次はオルタネータを分解して構成部品の確認をする。補機駆動ベルトの交換作業を多頻度作業として習得する。また、配線図集を使用し、車両の配線が読み取れるようになる。2年次はアイドル回転速度制御および点火時期制御に必要なセンサの出力波形をオシロスコープで確認したり、疑似信号を入力したときに制御が変化することを確認したりすることで制御の理解を深める。また、各センサーの点検方法を習得する。	1後 2後	65	2				○	○	○						
39	○		整備作業 電装Ⅳ	1年次は灯火装置の部品を用いて回路の作成を行うとともに灯火装置の点灯点検やバルブ交換作業などを習得する。パワーウィンドウにおいては、ドアパネルを分解し、パワーウィンドウレギュレータの構造を学習する。2年次はハイブリッド車の構造の確認、高圧作業時の注意点、点検作業時に必要になる追加作業などを学ぶ。また、2年間の電装教科の復習を行う。	1後 2前	65	2				○	○	○						
40	○		整備作業 故障探求	1年次は実践的なトラブルシューティングの考え方と進め方を学ぶ。実際に不具合を設定した車両を使用し、現象から不具合箇所の推定や点検による不具合箇所の切り分けを学び、不具合箇所を実際に特定していく方法を学ぶ。2年次はトラブルシューティングの基本の考え方と進め方を学ぶ。実際に不具合を設定した車両を使用し、お客様への問診や現象確認の方法、点検方法の基礎を学ぶ。	1後 2後	60	2				○	○	○						
41	○		自動車検査 作業Ⅰ	12月点検の意味と点検項目を学ぶ。実際に点検させ、点検後の点検整備記録簿の記入方法について学び、多頻度作業として習得する。シートベルトやエアバックの構造を学ぶ。	2前	30	1				○	○	○						
42	○		自動車検査 作業Ⅱ	車検の必要性と点検項目を学ぶ。実際に点検を実施し検査機器の使用方法を学ぶ。また、点検後の指定整備記録簿の記入方法についても学び、多頻度作業として習得する。この教科中に現場研修を実施し、自動車整備の現場にて定期点検全体の流れを把握するとともに、就職後の業務について理解を深める。	2後	30	1				○	○	○	○	○				○
合計				42 科目		1870単位時間( 72 単位)													

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席が時数の3分の2を超え、かつ教科の成績が不可（60点未満）でないこと。また、授業料等が完納していること。	1学年の学期区分	2期
履修方法： 専門教育全科目を必修とする	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。